



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

平成28年度昭和大学入学式が、去る4月12日(火)午前10時より、青天のもと新緑がまぶしい明治神宮記念館に於いて厳粛に執り行われました。今年度の新生は、医・歯・薬・保健医療学部合わせて、580名(編入生を含む)で、会場は新生とそのご家族、昭和大学教育職員等で二階席まで埋め尽くされました。



昭和大学管弦楽団による演奏に引き続き、小出良平学長から、今年が本学前身の専門学校の設立から88年目の記念すべき年にあたるので、全寮制と4学部8附属病院の環境のなかで医療人として成長するようとの告辞がありました。小口勝司理事長からは、寮生活を通じて、至誠一貫の精神である他人への思いやりと優しさを学んで身につけて欲しいとの祝辞がありました。新生代表の医学部 林和貴君のリードで、新生ならびに昭和大学関係者全員で昭和大学宣言を唱和し、引き続き校歌を斉唱し、入学式を閉会しました。

新生歓迎行事実行委員(医学部 中村君、歯学部 志村君)の歓迎の挨拶に引き続き、メディカル・オールスターズによる歓迎の演奏とアカペラ部による歓迎の歌が披露され、出席者一同聞き惚れました。最後に恒例の応援指導部による新生歓迎演武があり熱気のなか歓迎プログラムを終了しました。昼前に新生はバスに分乗して、富士吉田校舎に向かいました。新生が、学友との共同生活を通じて富士吉田校舎で多くの経験を積んで、大いに成長することを期待しています。

超高齢社会に突入した我が国では、高齢者医療の充実は待たなしです。本歯学部では長寿健康に貢献できる資質の高い歯科医師を育成することを目標に掲げ、組織の改変や教育改革を進めてきました。本年度も本学の最大の特徴であるチーム医療教育の充実を図り、高齢者歯科医療教育を一層推進します。平成24年度から文部科学省の事業として、連携大学ならびに地域歯科医師会と協同で進めている「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」プロジェクトは、いよいよ最終年度を迎えます。今年度は臨床実習の一貫として、医学部附属病院内の実習に

加えて、地域歯科医療実習を必修化で実施します。また、平成26年度からスタートした岡山大学を主管とする「課題解決型高度医療人材養成プログラム:健康長寿社会を担う歯科医学教育改革プロジェクト」、および本学薬学部が主管の「同プログラム:大学と地域で育てるホームファーマシスト」への参画を含めて、高齢者歯科医療教育ならびに在宅チーム医療教育の一層の充実を図ります。

今年度も本歯学部のさらなる発展にむけて、関係者のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



大学院入学式が挙行されました

歯学研究科前運営委員長 井上 富雄

平成28年度大学院入学式が4月2日(土)に上條講堂において医歯薬保の4研究科合同で開催されました。歯学研究科は一般選抜19名、社会人特別選抜4名の合計23名でした。また昨年度に引き続いて今年度も、学生時代に大学院の単位を取得する「マルチドクタープログラム」の修了者1名が大学院に入学しました。その後場所を2号館第3講義室に移して、入学者を対象にオリエンテーションを行い、「マルチドクタープログラム」を今年度から受講する3名の学部学生もオリエンテーションに参加しました。山本松男大学院運営委員長から、研究を開始するにあたっての心構え、研究倫理の順守および単位取得における注意事項などの説明と、井上運営委員からマイク先生による英語の授業の概要と注意点の説明を受けました。英語の授業は、今年度から薬学研究科大学院生も含めた10名程度の混成のクラス編成で実施することになりました。新入学の諸君が優れた研究を行って、本学歯学部の研究活動を推進するとともに歯科医学の発展に貢献するよう願っています。



白衣授与式 進級式が行われました

教育委員長 美島 健二

平成28年度昭和大学歯学部白衣授与式は3月25日(金)の午前9時45分より上條講堂で開催されました。本年度は89名の新5年生が真新しい白衣に袖を通すことになりました。小口理事長、小出学長のご臨席を賜り、臨床実習責任者の長谷川教授の司会・進行のもと授与式が執り行われました。まず、美島教育委員長の開式の辞により開催が宣言され、校歌斉唱と進み、宮崎歯学部長から、本授与式が臨床実習参加に必要なStudent Doctorとしての認証式として大切な意味を持つ旨お話しがなされました。その後9名の臨床系ないし基礎系教員から学生に順次白衣の授与が行われました。続いて小出学長、榎歯科病院長、相澤歯科病院看護師長からの暖かな御祝辞を賜り、臨床研修を終えた先輩として中井健人先生から学生へのアドバイスがなされました。次いで、新5年生の篠田眞保さんの発声に続き、出席者全員が声を合わせて昭和大学宣言を読み上げました。最後に、上條学生部長による閉式の辞のあと閉会となりました。その後、上條講堂前で記念撮影が行われましたが、御父母の方々も多数出席され、学生達は臨床実習前の1つの区切りとして気持ちを新たにしましたことでしょう。新5年生の皆さんが積極的に臨床実習に参加し、歯科医療人として大きく成長していく事を期待しております。



昭和大学入職式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

学校法人昭和大学平成28年度入職式が、4月1日の午前10時から明治神宮会館で開催されました。明治神宮の杜は、新緑と満開の桜ですがすがしい雰囲気になっていました。本年度採用された新入職員は、教育職員233名、内科研修医21名、研修医(医学部)93名、研修医(歯学部)80名、事務職員49名、看護師・助産師442名、薬剤師レジデント36名、その他の医療技術系職員47名の合計1001名で、昨年度よりも50名弱増えました。

式典は昭和大学管弦楽団の演奏で厳かに開式しました。法人役員が登壇し、最初に小口勝司理事長から「本学は社会に貢献するすぐれた医療人を育成する大学なので、全ての新入職員が職種を問わず医療人として、医療を通じて社会に貢献するとともに、

学生や後進の教育にも責任を持って欲しい」と訓示がありました。引き続き小出良平学長から、本大学の歴史と特徴が紹介され、至誠一貫と昭和大学宣言を常に念頭において勤務するようにとの挨拶がありました。小口理事長から新入職員代表の田中花純さん(看護師)に辞令が交付され、田中さんが新入職員宣誓をしました。大塚凌さん(事務職員)のリードで参列者全員が昭和大学宣言を唱和し、引き続き校歌を斉唱しました。今年度はグリークラブによる新入職員への送る歌と、久光医学部長が率いる多職種連携ジャズサークル スウィングラボ2011の演奏があり、会場内が和やかな雰囲気につつまれたなか、11時に閉会しました。

その後、昭和大学の名前が入った入職記念のタオルを手元で掲げながら記念撮影をしました。入職式終了後には、人権啓発推進課の山口課長の人権啓発に関する講演がありました。

新入職員におかれましては、それぞれの職場で、同僚・上司の指導のもと、本学の発展のために鋭意努力されますようお願い申し上げます。



D6実践研修が実施されました

歯学部就職支援委員会 佐藤 裕二

4月1日に実践研修「～選ばれる秘訣～」が ANA ビジネスソリューション: 矢吹桂先生を講師にお招きして開催されました。知識や技能を教育することは当然ですが、立派な社会人を育てることも重要と考え、5年前から開始しています。昨年度も非常に好評であり、本学の卒業生の高い評価の一因と自負しています。相互実習や講演であつという間の2時間で、学生たちは目を輝かせて受講しました。講演終了後も、学生が個別に質問し、丁寧にご回答頂きました。この後、各学生は、指導担任にメールでアポを取り、模擬面接を行う予定です。本学卒業生の評判が学力だけではなく、社会人としてもさらに高まってくれることを期待しています。



至誠塾入塾式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

去る4月6日(水)午後6時から、旗の台校舎1号館5階カンファレンスルームにおいて、平成28年度至誠塾の入塾式が開催されました。今年の新入塾生は8回生で、教育職員、事務職員、および看護師ほかの多様な医療職に従事している15名の新入塾生を迎えました。歯学部関係では、歯周病学講座の滝口尚講師と、富士吉田教育部の前田昌子講師が入塾しました。

至誠塾は小口勝司理事長の発案で、将来の学校法人のリーダー育成のために設置されました。2年間のコースで、1年目は学務、病院、法人の管理運営全般に亘り、毎週水曜日に講義とグループ討論を通じて、塾長の小口理事長、ならびに副塾長(小出学長ほか)の先生がたから直接指導を受けます。2年目は各自の研究テーマを決めて1年間でプロダクトをまとめます。すでに多くの修了生が本学の各職場で活躍しています。

入塾式終了後、会場を喫茶アミに移し、2年生に在籍の7回生を交えて歓迎会を開催し、懇親を深めました。毎週水曜日の夜に、日常業務のあとに慣れないテーマを学習するのは大変ですが、最後まで頑張っ



上條旗ヶ岡賞を受賞しました

昭和大学研修医 加藤 善郎

昭和大学第34期生加藤善郎といいます、この度は上條旗ヶ丘賞をいただくことができ、大変光栄に思います。

私は昭和大学歯学部に入塾してからの六年間馬術部に在籍していました。馬術部は金曜日の夜から山梨県の富士吉田にある馬場に行き、土日に活動しています。現在自馬は5頭おり、部員も20名を超える大所帯となりました。

よく大変な部活だよ、と言われるのですが、慣れてくるとそうでもありません。時間をうまく作るためのスキ



ルが身につくと思っています。この経験が国試合格へつながったと思います。

6年次の国家試験合格にむけて、うまくいかなかったときにどう軌道修正するのか、本当にこのままでいいのか思い悩んだ時に部活での経験が大変役に立ちました。

勉強面は不安を抱えていましたが、困ったときには相談に乗ってくださる部活の先輩も多く、部活をしていてよかったと感じました。また、気分転換に馬に乗ってリフレッシュすることもできました。このように、馬術部のおかげでメリハリのある6年間になり、上條旗ヶ丘賞を受賞することができました。

これからは昭和大学歯学部卒業生として日々精進しますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

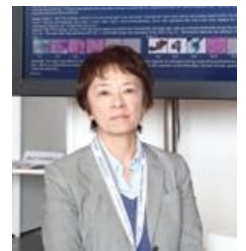
富士吉田教育部兼務教育職員に就任しました

口腔病理学講座 河野 葉子

今年4月から前任の桑田啓貴教授にかわり、富士吉田教育部兼任教育職員に就任いたしました。早速4月8日には富士吉田教授総会があり出席させていただきました。2年前にPBLのチューターで富士吉田に行きましたが、今回周囲環境や昭和大学の建物も少しずつ変わってきており、時間が流れていると感じました。私が大学1年生を過ごした頃(ずいぶん前になりますが)とは全く変わっており、なかなか新鮮な気持ちでした。教授総会のあと歓迎会に参加させていただき、1年生に対する教員たちのfollow upの細かさや授業に関すること、生活面での気遣いなど、富士吉田の教員の熱心さに大変関心いたしました。

今回、入学式や入寮式に参加することができませんでしたが、この1年間で学生さんと交流できることを期待しています。

これから歯学部教育職員の代表の一人として、富士吉田での教育にさらに良い方向へ進めていけるよう携わってまいりたいと思っていますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



マダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加しました

歯科矯正学講座 高橋 正皓

今回幸運にも、歯科医師としては初めて、平成27年度昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力活動に参加する大変貴重な機会を与えていただきました。

口唇口蓋裂は、最も発生頻度の高い先天性疾患の一つで、主に審美障害、言語障害、咬合異常を呈することから、集学的なチーム医療が必須であり、治療に携わる診療科は多岐にわたります。

マダガスカル共和国の国内総生産は、日本の約1/84で、国民の約90%が1日200円以下での生活を余儀なくされています。そうした中で、歯科治療費は非常に高額です。治療費としては抜歯処置が一番安く、基本的に1回の処置で終了するため、最終的に困ったら抜歯をしてもらうということが一般的の様です。日本でいう国民皆保険制度が確立されていないことが、十分な歯科医療を受けることができない最大の理由と考えます。また、歯を磨く習慣がない人も多く、口腔衛生状態が極めて不良な患者が多く見られました。

本活動は、手術が主な活動目的ですが、今後、プロジェクトをより発展させていくためには、我々、歯科医師の知識や経験が必須であると感じました。

末筆ではございますが、今回大変貴重な経験をさせていただく機会を与えていただきました曾野綾子先生をはじめ、笹川記念保健協力財団の関係者の皆様、昭和大学の関係者の皆様やサポートしていただきました皆様に、改めて深く感謝を申し上げます。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 5月29日(日):学祖祭
- 6月 4日(土):富士吉田体育祭
- 6月 5日(日):富士吉田オープンキャンパス
- 6月11日(土):父兄会総会

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加しました

歯学部6年 丸山 恵莉

第5回昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力に平成28年2月8日～2月23日まで歯学部生代表として参加させて頂きました。高校まで海外で生活していたことありますが、それとは違い医療協力という立場で経験したいと思い応募しました。

私たちの活動拠点は第3の都市であるアンチラペ市にあるアベマリア病院で10泊お世話になりました。学生の活動内容は手術介助から現地の人々との交流と幅広く、その中でも現地の歯科見学では日本の歯科医療の現状と異なる部分が多かったです。例えば、マダガスカルの人々は歯磨きをする習慣がありません。一部の人は、木の枝を岩に叩き付けて繊維状にし、もう片方の末端をナイフで削り爪楊枝状にして使っています。又、炭や塩を歯磨き粉の代わりに使用している人もいます。実際に接した子供達も保護者も「歯磨き」という行為は知っているものの、なぜ必要なのか、いつ行うのか、などの知識はありませんでした。その結果口腔衛生状況は非常に悪く、抜歯する事が多いのが現状です。この経験から私は将来歯を治すだけでなく、患者を変えることができる歯科医師になりたいという目標を見つけることが出来ました。学生時代にこの貴重な体験をさせて頂いた事を心から感謝しています。



昇任・採用

広報委員長 中村 雅典

茶谷昌宏助教(歯科薬理学講座)
江並沙羅助教(歯科病院:口腔ケアセンター)

編集後記

歯科薬理学講座 坂井 信裕

年度始めのお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿下さいました諸先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。